

令和6年度 第1回
希望郷いわてモニターアンケート質問書

課題名	多文化共生に関する意識調査
-----	---------------

令和6年5月

岩手県ふるさと振興部国際室

※この質問書は控えとしてお持ちいただき、回答用紙に答えをお書きください。

多文化共生に関する意識調査

ふるさと振興部国際室

【多文化共生について】

「多文化共生」とは、国籍や民族等の違いにかかわらず、全ての人がお互いの文化的背景や考え方を理解し、地域社会を支える主体として共に生きることです。

I 調査の目的

県では、平成22年2月に「岩手県多文化共生推進プラン」を策定、平成26年3月に改訂し、その後令和2年3月には「岩手県多文化共生推進プラン（2020～2024）」を策定して、多文化共生社会の実現に向け、各活動主体と連携し、取組を進めているところです。

本県における在留外国人数は、増加しており、平成10年には3,708人だったものが、令和5年6月末現在で9,112人と、過去最多となっています。

国は、新たな在留資格¹として平成30年に「特定技能」を創設するなど、外国人労働者の受入れの拡大を図っているところであり、本県においても外国人労働者を中心に、今後も増加していくものと見込まれています。

また、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、県民が世界とつながる機会が増加しています。

このように、県内で在留外国人が増加している状況を踏まえ、県としては外国人にとっても暮らしやすい環境づくりのため、市町村、国際交流協会等の関係機関と連携して、外国人県民等の言葉の壁や生活上の不便の解消、互いの文化や習慣などの多様性の理解促進に向けた取組を進めていく必要があると考えています。

こうしたことから、この度、多文化共生に関する県民の皆さんの意識を調査し、次期「岩手県多文化共生推進プラン」の策定、並びに本県の多文化共生施策の推進の参考としようとするものです。

御協力のほどよろしく申し上げます。

II 質問

問1 あなたは、「多文化共生」ということばを御存知でしたか。あてはまる番号を1つ選び、回答欄に記入してください。

- ① 知っている
- ② 聞いたことはあるが、内容はわからない
- ③ 知らない

¹ 在留資格：外国人が日本に在留することについて、法が定める一定の資格。

問4 あなたは現在、地域に暮らす外国人とどのようなつきあいがありますか。また、今後どのように接していきたいと思いますか。現在と今後について、最もあてはまる番号をそれぞれ1つ選び、回答欄に記入してください。

現在	今後
① あいさつをする程度	① あいさつをする程度
② お祭りなど地域行事で一緒になる	② お祭りなど地域行事で一緒になる
③ スポーツや文化活動を共にする	③ スポーツや文化活動を共にする
④ 友人としてつきあっている	④ 友人としてつきあう
⑤ 家族同様に親しくつきあっている	⑤ 家族同様に親しくつきあう
⑥ 全くつきあいが無い	⑥ 全くつきあわない
⑦ 近くに住んでいない	⑦ わからない

問5 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、外国人住民にどのようなことを期待しますか。最もあてはまる番号を1つ選び、回答欄に記入してください。

- ① 日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい
- ② 日本語や日本の文化などを学んでほしい
- ③ あいさつや言葉を交わしてコミュニケーションをとってほしい
- ④ 地域の活動に参加してほしい
- ⑤ 生活の中で感じたことを提案や発言してほしい
- ⑥ 外国の言葉や文化を教えてほしい
- ⑦ 特になし
- ⑧ その他 ()

問6 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、あなたはどのようなことがしたいですか。次の中から3つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- ① 外国の文化や生活習慣などを理解したい
- ② 外国語を学びたい
- ③ 自分から外国人に話しかけるようにしたい
- ④ 日本人住民と外国人住民が交流する行事などがあれば参加したい
- ⑤ 地域や職場・学校など普段の生活の中で交流したい
- ⑥ 身近な場で相談に乗りたい
- ⑦ 外国人が日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどを学ぶ手助けをしたい
- ⑧ 外国人が日本語を学ぶ手助けをしたい
- ⑨ 何もしたくない
- ⑩ その他 ()

問7 ILC(※)の実現により、世界最先端の研究を行うため、海外から大勢の優秀な研究者やその家族などが本県に移住することが予想されますが、このことについてあなたはどのような効果を期待しますか。次の中から2つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- ① 地域住民の国際理解が進展すること
- ② 地域住民のコミュニケーション能力や国際感覚が養成されること
- ③ 地域の人口減少に歯止めがかかること
- ④ 科学技術分野における教育水準が向上すること
- ⑤ 雇用創出などの経済効果が生まれること
- ⑥ 研究成果と合わせて、地域の文化や魅力が世界中に発信されること
- ⑦ 特にない
- ⑧ その他 ()

※ ILC: International Linear Collider (国際リニアコライダー) の略。全長 20~50 km の地下トンネルに建設される、電子と陽電子を加速、衝突させ質量の起原や時空構造、宇宙誕生の謎の解明を目指す大規模施設。研究者会議により、本県の北上山地が候補地に国内建設候補地として選定されている。

問8 多文化共生社会づくりのためにどのような取組が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- ① 外国人住民に対して、生活のルールや習慣、文化の違い等を周知
- ② 生活相談窓口の設置など、外国人住民に対する相談体制の充実
- ③ 日本語教室の設置など、日本語に関する学習機会の充実
- ④ 生活に必要な情報(居住、教育、医療、福祉、災害など)を多言語で提供
- ⑤ 外国人住民の自治会・町内会などへの参画の促進
- ⑥ イベントの開催など、外国人との交流の場の設定
- ⑦ 外国人を支援するボランティアの育成
- ⑧ 外国人住民だけでなく、外国人観光客も積極的に受け入れるなど、外国人と接する機会の増加の促進
- ⑨ 「多文化共生」に関する意識啓発や国際理解の促進
- ⑩ わからない
- ⑪ その他 ()

問9 その他、多文化共生について、御意見等ありましたら、御記入ください。

(回答用紙の「問9」の欄へご記入ください。)

最後に、あなたの性別、年齢、職業、居住地をお聞かせください。

(1) 性別 ① 男性 ② 女性

(2) 年齢 ① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代以上

(3) 職業

- ① 自営業（農林漁業） ② 自営業（農林漁業を除く） ③ 会社員
④ 団体職員 ⑤ 専業主婦（夫） ⑥ 学生
⑦ 無職 ⑧ その他

(4) 居住地域

- ① 盛岡地域 ② 花巻地域 ③ 北上地域 ④ 奥州地域 ⑤ 一関地域
⑥ 遠野地域 ⑦ 大船渡地域 ⑧ 釜石地域 ⑨ 宮古地域 ⑩ 久慈地域
⑪ 二戸地域

※御協力ありがとうございました。